

形成外科専門医研修ネットワークプログラム

1 はじめに



形成外科は、身体に生じた欠損や変形などに対し、機能的、形態的に修復し、整容的にも満足できるようにすることによって、生活の質“quality of life (QOL)”の向上を目指す、外科系の専門領域の一つです。多くの外科学が病巣部を取りきることを主目的としているのに対して、形成外科学は、創造する外科学という点が大きな特徴です。

これまで浜松医科大学には形成外科はありませんでしたが、2007年2月13日から診療を開始しました。当科では形成外科全般にわたる疾患を取り扱っていますが、特に院内各診療科や地域の医療施設とのチーム医療に力を入れています。具体的には、乳房再建やマイクロサージャリーを含めた悪性腫瘍摘出後の再建、熱傷や外傷などで生じた組織欠損の修復手術、唇裂・口蓋裂・多指症・合指症・漏斗胸などの先天性外表奇形の治療、皮膚悪性腫瘍の治療などであり、形成外科で扱う疾患のほとんど全てを幅広く行っている点、都市部の病院にはない利点があります。またレーザーを使ったシミなどの治療や脱毛など美容医学にも対処しています。

形成外科という科は、全ての病院に必要ではありませんが、規模の大きな病院や手術を多く行っている病院には必ず必要です。形成外科にしかできないことがたくさんあります。しかし静岡県においては、形成外科を専門とする医師が非常に少なく、これを育成することは急務です。

このプログラムは、静岡県内の浜松医科大学関連病院および主要研修病院によって、形成外科専門医を養成するために作成されました。是非とも、積極的な応募を期待しています。

プログラムリーダー 浜松医科大学医学部附属病院形成外科 病院教授 深水 秀一

2 目的

初期臨床研修を終えた医師を対象とし、日本形成外科学会専門医の取得を目指すとともに、研修環境の充実した県西部地区・浜松医科大学関連病院などの複数の病院を経験することで、外傷治療、再建、美容医療などについて専門的な知識と診療技術を持ち、これらの領域に対して適切に対応できる質の高い領域専門医の養成を目指します。

3 目標

◎目標症例（日本形成外科学会指定の項目全ての経験を目指す）

- | | |
|------------------------|------------------|
| ①新鮮熱傷（全身管理を要する非手術例を含む） | ②顔面骨骨折及び顔面軟部組織損傷 |
| ③唇裂・口蓋裂 | ④手、足の先天異常、外傷 |
| ⑤その他の先天異常 | ⑥母斑、血管腫、良性腫瘍 |
| ⑦悪性腫瘍およびそれに関連する再建 | ⑧瘢痕、瘢痕拘縮、ケロイド |
| ⑨褥瘡、難治性潰瘍 | ⑩美容外科 |
| ⑪その他 | |

領域専門医取得には、上記11分野のうち8分野以上を術者として経験する必要があります。これらの症例を経験するだけでなく、積極的な学会発表や論文作成まで行えるように指導します。

2017 年からは、領域専門医取得後、各関連分野学会（日本手外科学会、日本美容外科学会、日本創傷外科学会、日本頭蓋顎顔面外科学会、日本熱傷学会、皮膚腫瘍分野）の分野指導医資格を複数有するものに対して形成外科領域指導医資格が認定される。

4 特徴

- ① 本プログラムの研修期間は 60 ヶ月であるが、期間中、県内の認定施設や教育関連施設での研修、国内留学が可能である。また県内教育関連施設以外での研修も相談により可能である。（その場合、領域専門医取得までの年数が伸びる。）2014 年度実績（浜松医療センター形成外科 1 名、浜松赤十字病院形成外科 1 名、磐田市立病院形成外科 1 名、沼津市立病院形成外科 1 名、藤枝市立病院形成外科 1 名）
- ② 症例に偏りが少なく、幅広い疾患を経験できる。
- ③ 日本形成外科学会領域専門医取得には論文が必要であるが、研修期間中に英文雑誌への投稿を目標とし、指導を行う。
- ④ 毎週定期的に症例検討会を行っているほか、毎月 2 回英文雑誌の抄読会および病理組織検討会を行っている。
- ⑤ 研修開始年より、積極的に手術を経験させる。

5 研修カリキュラム

- ◎ 研修における一般目標
 - ・ 形成外科では、頭蓋顎顔面から四肢に至る、全身の主として体表の先天異常や後天性疾患に対して、局所の外科治療のみならず、患者や家族の心理的・精神的側面から援助できる医師の養成を目指している。そのため、患者の全身管理が出来ること、患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立することを必要としている。
 - ・ 医療チームの構成員としての役割を理解し、他科と協力して治療にあたる。
 - ・ 形成外科・再建外科の疾患では、毎回問題対応型の思考が必要であり、生涯にわたる自己学習の習慣を身に付ける。
- ◎ 研修内容と到達目標
 - 日本形成外科学会の研修条件に準じて以下の内容を研修します。
 - 原則として 1 年を単位として、2 つ以上の病院をローテートします。
 - 第 1 年次～4 年次まで
 - ① 形成外科で扱う全ての疾患の把握と術前術後の管理・処置
 - ② 各種先天異常における治療内容（手術時期・手術方法）の把握
 - ③ 皮膚・軟部組織の再建の基本概念（植皮・皮弁）と手技の獲得
 - ④ 肥厚性瘢痕とケロイドの発生、経過、予防法、治療の獲得
 - ⑤ 褥瘡と皮膚潰瘍の発生、処置の原則、各種治療法の習得
 - ⑥ 外傷や熱傷に対する適切な応急処置のための基本的な知識と技術の獲得
 - ・ 特に顔面外傷・顔面骨骨折の診断と治療、熱傷の診断と全身管理、手術時期と手術方法、手の外傷の診断と治療の習得を重要視している。

6 研修例

卒後3年目の医師の研修計画（例）

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
～ 4年目	1年目は大学病院で研修 以後は要相談											
5年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	○学会資格試験申請						◎資格試験			●認定		

※1年目に「日本形成外科学会」に入会し、資格試験申請時には4年以上学会の会員であることが要件です。

7 研修病院群（順不同）

① 浜松医科大学医学部附属病院形成外科

詳しくはホームページをご覧ください。

年間手術件数（2013年）：743件（入院 370件、外来 373件）

年間新患者数（2013年）：935人

② 浜松医療センター形成外科

研修指導医 松浦 喜貴（まつうら よしたか）

2005年3月 大阪医科大学卒業

日本形成外科学会専門医

当院形成外科は、静岡県西部の中核医療施設そして日本形成外科学会認定施設として、形成外科全般にわたる疾患を取り扱っています。専門医の育成にも力を入れており、できるだけ多くの症例を執刀してもらうことにしています。

熱傷・顔面外傷・顔面骨折などの救急疾患に積極的に取り組み、早期社会復帰を目指します。特に熱傷は、特殊病室、空気流動式熱傷ベッドを完備し、県内でも数少ない広範囲熱傷特定集中治療施設として認定されています。

当院では特に院内各診療科や地域の医療施設とのチーム医療に力を入れています。外傷（けが）、熱傷（やけど）、がんなどの治療には関連した各科との協力が欠かせません。具体的には顔面骨の多発骨折、全身の多発外傷、乳房再建や頭頸部腫瘍摘出後の再建など悪性腫瘍切除後の外傷などで生じた組織欠損の修復手術、先天性外表奇形の治療に対して各科と協力する「チーム医療」で、整容的だけでなく機能的にも満足していただけるよう努力しております。特に唇裂・口蓋裂については平成22年7月から口蓋裂外来を新設し、歯科口腔外科をはじめ関連する各科との連携をさらに強化して治療にあたります。

また、平成22年からフラッシュ光線治療器（I2PL）を導入し、しみの治療を開始しました。従来のQスイッチレーザーによる保険診療も行っています。

症例のカンファレンスを毎週火曜日に行っており、病理医の指導による病理カンファレンスを隔週木曜日に行っています。幅広い症例を経験できることが期待できるとおもいます。

年間手術件数（2013年度）：678件（入院 254件、外来 424件）

③ 市立島田市民病院形成外科

指導医 寺井 勉 (昭和63年 京都大学医学部卒業)

日本形成外科学会専門医

医員 三倉 文子



当院は「地域医療に貢献する」を理念として掲げており、当科においても形成外科領域全体に幅広く診療しております。

年間全身麻酔手術52件、その他の手術件数は439件です。(2014年)

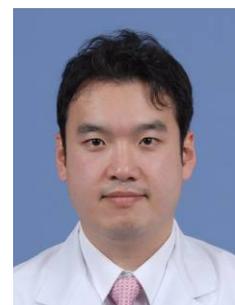
外科、口腔外科、整形外科、皮膚科との連携も良好で、乳房再建、口腔癌切除後の再建、切断指の再接合、熱傷や皮膚癌の手術など幅広い臨牀経験、研修ができる医療機関と思います。

④ 聖隷浜松病院形成外科

研修指導医

医長 原口和也

日本形成外科学会形成外科専門医



当科は昭和56年に開設され、静岡県西部地区の中核施設として地域の先生方の信頼を頂いています。平成24年度から指導體制が変更になり、形成外科領域全般を幅広く診療するだけでなく、救急科、耳鼻咽喉科、外科、乳腺外科、産婦人科など他科と連携し、先天異常や悪性腫瘍の再建など横断的な治療を行っています。

2014年12月より血管腫、血管奇形の治療のためV beamを導入し、レーザー治療を開始しました。これまで行ってきたIPL、QYAG、CO2レーザーとともに様々な色素異常の診療に対応しております。

一般病院ならではの豊富な症例の中でスキルアップを図り、専門医を目指す熱意ある方をお待ちしています。年間の手術件数(2014年)は639件(入院234件、外来405件)です。

⑤ 浜松赤十字病院形成外科

研修指導医

形成外科部長 岡本年弘

日本形成外科学会専門医

日本形成外科学会皮膚腫瘍外科指導専門医

日本創傷外科学会専門医



当院は、「人道」「博愛」の赤十字精神をもとに救急医療や災害医療に取り組む地域中核病院です。平成19年に浜松市浜北区に移転し、快適な施設と最新設備で質の高い医療を提供しています。形成外科は、平成18年から開設され、現在は日本形成外科学会の教育関連施設の認定を受けております。現在は専門医1名、専門医を目指す医局派遣医師1名の計2名体制です。

外傷、腫瘍、先天異常など形成外科全般にわたって幅広く積極的に治療に当たっております。疾患分類では、皮膚の良性及び悪性腫瘍の比率が比較的高いのが特徴です。浜松市北部地域の基幹病院として住民の厚い信頼を得ている病院であり、形成外科においても年々手術件数が増加しております。年間の手術件数(2014年)は、428件(入院141件、外来287件)です。

⑥ 沼津市立病院形成外科

研修指導医

形成外科部長 中東和彦

日本形成外科学会専門医

日本形成外科学会皮膚腫瘍外科指導専門医



北に名峰富士・南に駿河湾とに恵まれた自然環境を有する当院は静岡県東部の中核医療施設で、当科は昭和 63 年に開設され、日本形成外科学会認定施設として、形成外科全般にわたる疾患を取り扱っています。年間の手術件数 (2014 年) は、384 件 (入院 176 件、外来 208 件) です。

具体的には皮膚の良性・悪性腫瘍の切除および再建、多合趾症や口唇口蓋裂をはじめとする先天異常、顔面外傷はもちろんのこと、救命救急センターを要するため外科・整形外科・脳神経外科・歯科口腔外科・耳鼻咽喉科など複数の科との協調により複雑な疾患にも横断的に対応しています。さらに、近年は糖尿病罹患患者数の増加に伴う足潰瘍や骨髄炎に対して救肢を目標に、病変の早期発見・早期治療並びに近隣施設への啓蒙活動も行っています。

患者様とのコミュニケーションを第一に、満足のいただける医療提供を目指しております。また地域の基幹病院として病診連携を重視し、院内では褥瘡対策をはじめフットケア、NST などチーム医療に力を入れています。

⑦ 藤枝市立総合病院形成外科

研修指導医

医長 森田 勝 (もりた まさる)

2002 年 3 月 新潟大学医学部卒業

日本形成外科学会専門医



当院は県中部志太榛原地区の中核病院として機能しており、当科も他科との連携を取りながら地域医療に貢献できるよう努めております。形成外科領域全般を取り扱いますが、腫瘍や外傷、それらに起因する組織欠損の再建の症例が多いのが特徴です。

また院内および地域の褥瘡対策にも力を入れ、フットワークの良さを生かした診療を心掛けております。

年間手術件数 (2014 年) は、569 件 (入院手術 278 件、外来 291 件) です。

⑧ 浜松労災病院形成外科

研修指導医 藤高 淳平 (日本形成外科学会専門医)

福原 定子 (日本形成外科学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医)

浜松労災病院は、1967年に労働災害や職業病に専門的医療を提供すること目的に設立されましたが、現在は急性期疾患を扱う地域の基幹病院となっております。

形成外科は、日本形成外科学会認定施設として、形成外科全般にわたる疾患を取り扱っています。専門医取得にむけて幅広く疾患を経験できる体制となっております。近年では、皮膚良性腫瘍や悪性腫瘍が多い傾向にあります。また、古くからレーザー治療を取り入れていることもあり、レーザー治療の症例数も多いです。

他診療科との垣根も低く、他科とのコミュニケーションも活発です。2010年秋に全面改築され、きれいな環境で研修ができます。

年間手術件数（2013年度）：725件（入院 180件、外来 545件）

⑨ 磐田市立総合病院形成外科

研修指導医

形成外科医長 鈴木 綾乃（すずき あやの）
2002年3月 名古屋市立大学医学部卒業
日本形成外科学会専門医

医員 松下 友樹

当院は、地域医療を担う病床数500の静岡県中東遠地区中核病院です。形成外科医が常勤となったのは平成24年4月からと新しいですが、年毎に徐々に症例数が増えてきております（平成25年4月より日本形成外科学会の教育関連施設認定あり）。形成外科全般を扱いますが、救命救急センターがあるため熱傷を含む外傷症例から、人工物／自家組織による乳房再建、先天奇形（唇裂、多合指症）、皮膚腫瘍、足壊疽、褥瘡、腫瘍切除後の再建など、幅広く経験できる研修を活気ある病院で送れると思います。また、初期研修医や家庭医向けに形成外科の知識・技術をお伝えするハンズオンセミナーの開催なども積極的に行っています。各科、他職種とも良好な連携を取りつつチーム医療を実践し、信頼される形成外科医の育成を目指しています。

年間手術件数（2014年）は、553件（入院157件、外来396件）です。

⑩ 静岡県立静岡がんセンター 再建・形成外科

研修指導医

再建・形成外科部長 中川 雅裕（なかがわ まさひろ）
日本形成外科学会専門医
日本外科学会専門医
日本がん治療認定機構 暫定教育医
日本がん治療認定機構 がん治療認定医
日本形成外科学会皮膚腫瘍外科指導専門医
日本創傷外科学会 専門医



当院 再建・形成外科では頭頸部外科、皮膚科、乳腺外科、整形外科、食道外科、眼科などさまざまな科の癌切除後の再建手術を行っています。特にマイクロサージャリーによる遊離複合組織移植を中心として有茎皮弁、局所皮弁、植皮、血行再建、神経再建など多様な手技を用いた再建を行っています。最も多い再建手術は頭頸部癌切除後の組織欠損に対する遊離腹直筋皮弁、遊離前外側大腿皮弁、遊離空腸移植などの遊離皮弁を用いた再建です。最近では乳房再建症例も増加してきており、遊離深下腹壁動脈穿通枝皮弁や有茎広背筋皮弁のみならずシリコンインプラントによる治療も行っています。また、多職種チーム医療を行っており、他科医師、看護師、コメディカルを含めたカンファレンスで手術や治療の検討を行い、術後機能およびQOLの向上まで考慮した再建を目指しています。特に頭頸科、口腔外科、リハビリテーション科との緊密な連携により頭頸部癌切除後の再建では単に組織欠損を充填するにとどまらず、術後の嚥下機能、構音機能、さらに整容性を高めるように検討を重ねています。

再建外科では他科や他職種との多職種チーム医療が重要です。手術はもちろんですが、周術期管理、カンファレンス等多職種チーム医療に関する研修を行います。手術では頭頸部再建、乳房再建、四肢再建など、特にマイクロサージャリーを用いた遊離組織移植を中心に研修してもらいます。

年間手術件数

(2014年) 手術件数 396件、マイクロサージャリー手術 103件

⑪ 静岡市立静岡病院形成外科

以前は皮膚科と形成外科が分離していなかったが、2015年4月から浜松医科大学形成外科の関連病院として形成外科に2名の常勤医が着任した。それまでも外科、耳鼻科、口腔外科、整形外科など関連各科と連携して再建手術などを行ってきたが、さらに県中部の中核病院として日本形成外科学会領域専門医の育成に力を入れていく。

8 研修期間

- ① プログラム全体の研修期間は5年間(60ヶ月)
- ② 1年目から4年目では形成外科領域専門医資格審査に必修である60症例の手術(前述11分野)を確実に達成する。
- ③ 領域専門医資格試験受験には1編以上の論文が必要である。当科では研修期間中に、英文雑誌への投稿を指導する。
- ④ 5年目に形成外科学会領域専門医試験を受験する。
- ⑤ さらに修了後、医学博士の学位取得、関連学会の領域専門医(指導医)資格取得(日本熱傷学会、日本創傷外科学会、日本頭蓋顎顔面外科学会、日本手の外科学会など)、さらに日本形成外科学会領域指導医への道が開かれている。

9 プログラム参加の要件

- ① 初期臨床研修を終えていること。
- ② 日本形成外科学会に加入すること。
- ③ 日本形成外科学会領域専門医資格を目指していること。

10 処遇

- ① 身分: 原則常勤医員。大学は医員(後期研修医)。
- ② 給与その他の雇用条件は各病院の雇用条件に従う。

11 プログラム終了後の進路

プログラム終了後の就職先の選定は個人の自由であるが、県内病院に就職を希望する場合の相談は、研修管理委員会が対応する。大学にて研究、教育、診療を行う、海外留学するなどの希望も、可能な限り対応する。

12 プログラム運営委員会

○ プログラムの管理

〒431-3192 浜松市東区半田山 1-20-1 浜松医科大学附属病院形成外科 深水秀一
電話 053-435-2649 E-mail : fukamizu@hama-med. ac. jp

市立島田市民病院形成外科	寺井 勉
浜松医療センター形成外科	松浦喜貴
聖隷浜松病院形成外科	原口和也
浜松赤十字病院形成外科	岡本年弘
沼津市立病院形成外科	中東和彦
藤枝市立総合病院形成外科	森田 勝
浜松労災病院形成外科	藤高淳平
磐田市立総合病院形成外科	鈴木綾乃
静岡県立静岡がんセンター再建形成外科	中川雅裕
静岡市立静岡病院形成外科	三倉文子

13 その他

◎ 取得できる専門医資格

研修指定病院は、日本形成外科学会の認定施設となっており、同学会の領域専門医を取得することが可能である。その他医学博士の学位取得、関連学会の領域専門医（指導医）資格取得（日本熱傷学会、日本創傷外科学会、日本頭蓋顎顔面外科学会、日本手の外科学会など）、日本形成外科学会の領域指導医資格取得が可能である。

形成外科領域専門医の受験資格

1. 6年以上日本国医師免許証を有するもの
2. 臨床研修2年の後、資格を有する研修施設において通算4年以上の形成外科研修を行うこと。
4年以上ひきつづいて日本形成外科学会正会員であること。
3. 学会が認定した研修施設で4年以上の形成外科研修を行い、直接手術に関与した60症例の一覧表、術者として手術を行った10症例についての病歴要約の記録を有するもの
4. 日本形成外科学会主催の講習会(学術研修会あるいはインストラクショナル・コース)受講 証明書を4枚以上有すること。

提出書類

1. 認定申請書ならびに所定の審査料
2. 日本国医師免許証の写し
3. 履歴書および業績(形成外科に関する論文)
4. 研修病院在籍証明書またはこれに代わるもの。認定施設の長が異動あるいは不測の理由で証明できない
場合病院長あるいは後任者が一括して研修期間を認定することができる。
5. 第20条に定める症例の記録
6. 日本形成外科学会主催の講習会(学術研修会あるいはインストラクショナル・コース)の受講証明書4枚以上。